

# 大仙市 部活動地域移行ビジョン

## 目指す姿

- 少子化の中でも子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保  
→子どもたちは、自発的な参画の中で「楽しさ」「喜び」を感じ、それが自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創りにつながる。
- 学校の働き方改革の推進  
→教員は十分な準備の時間を創出することができ、学校教育の質の向上につながる。

国が示す改革の方向性（スポーツ庁・文化庁提言、R4.12総合的ガイドラインから）

～令和6年度

令和7年度

令和8年度～

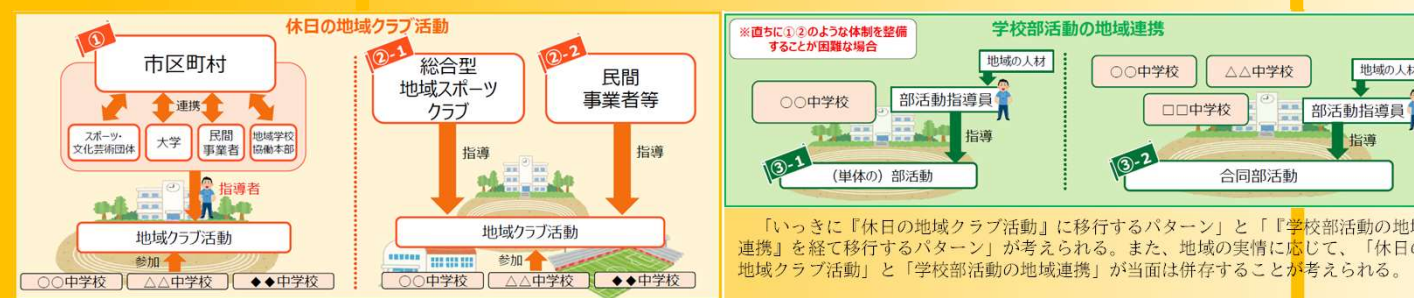
### 課題

- ▲深刻な少子化による部活動の持続可能性  
・生徒数S61：589万人  
→R3：296万人
- ・単独で団体種目に出場できない学校の増加
- ▲教師の業務負担  
・経験がなくても指導  
・1日あたりの指導時間増  
平日：平均0.34h(H18)  
→平均0.41h(H28)  
休日：平均1.06h(H18)  
→平均2.10h(H28)
- ▲地域の団体や指導者と学校との連携・協働

## R5-7の3年間で「休日の部活動の地域移行に向けた改革推進期間」

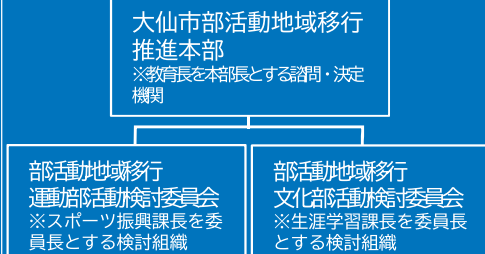
※平日の部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられる。  
※地域の実情に合わせて、3年間と限定しない。

進捗状況を確認して更に改革



R4：準備委員会にて情報収集・組織構想  
R5：大仙市部活動地域移行推進本部設置要綱の施行

### 大仙市部活動地域移行推進組織



教育指導課内に部活動地域移行検討委員会事務局を置き、庶務を担当する。事務局において（コーディネーターを中心に）情報収集、各種団体との関係構築に努める。

推進本部会議・検討委員会の実施（各3回）  
休日の部活動地域移行の目標設定（R6夏：30% R7夏：60% R7年度末：100%）  
アンケートの実施（各校校長、大仙市内の小5～中2の児童生徒・保護者、小・中学校職員、運動文化関係団体の指導者）→市教委HPIにて結果公表  
部活動指導員4名配置（バスケットボール、ソフトテニス、柔道）

R6：推進本部会議（3回）・検討委員会（4回）の実施  
夏段階の地域移行・地域連携状況→20.4%（移行：9.5%、連携：10.9%）  
アンケートの実施（各校校長）  
部活動指導員10名配置（バスケットボール、ソフトテニス、柔道、軟式野球、吹奏楽、合唱）

## 「多様な活動の場の確保」 「休日の部活動地域移行・地域連携の実現」 のために

- 部活動地域移行支援コーディネーターの配置  
「状況やニーズの把握」「指導者や受け入れ可能団体の発掘とマッチング」等を促進する
- 部活動指導員の配置  
ニーズに合わせた部活動指導員を配置していく
- 地域クラブ活動への支援  
「地域連携・地域移行ハンドブック」の更新・配付、補助金の制度整備、等をおこなう
- 地域クラブ活動の周知  
「中学生が参加できる大仙市の各種活動一覧」をまとめ、周知体制を整備する

休日の部活動地域移行目標

R6夏段階：30%

R7夏段階：60%

R7年度末段階：100%



【R6.3 秋田県教育庁】「秋田県学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン（Ver.1）」作成

【R6.4 秋田県教育庁】「秋田県スポーツ指導者登録システム」立ち上げ

【R6.6 日本中体連】令和9年度から、「一部競技において全国中学校総体を実施しない」「継続する競技においても会期を3日以内、参加者と経費を30%減とする」という発表